

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年3月24日

ファイザービオンテックワクチンの効果と安全性：

5～11才児、12～15才児：PROTECTコホート調査

【松崎雑感】

ファイザービオンテックワクチンとモデルナワクチン（mRNAワクチン）を2回接種すると、オミクロン株感染リスクが、小学生世代では31%低下、中学生世代では59%低下していました。ブレイクスルー感染の場合でも、ワクチンを2回接種した小児では、未接種の場合よりも1日半早く症状が収まることもわかりました。小児では、自然免疫力が高いため、新型コロナに感染しても重症化するリスクは大人よりずっと低いとはいえ、ワクチン免疫を付けた方が、感染しても1～2日早く回復（平熱に戻るなど）するようです。このようなメリットも考慮して接種するかどうかを判断していただくのも良いかと思います。

ファイザービオンテックワクチンの効果と安全性：

5～11才児、12～15才児：PROTECTコホート調査

Fowlkes AL, et al. Effectiveness of 2-Dose BNT162b2 (Pfizer BioNTech) mRNA Vaccine in Preventing SARS-CoV-2 Infection Among Children Aged 5-11 Years and Adolescents Aged 12-15 Years - PROTECT Cohort, July 2021-February 2022. *MMWR Morb Mortal Wkly Rep*. 2022 Mar 18;71(11):422-428. doi: 10.15585/mmwr.mm7111e1. PMID: 35298453.

ワクチン接種に関するCDC諮問委員会は12～15才児、5～11才児に対するファイザービオンテックワクチン接種を勧告している。

これらの年齢層の人々におけるリアルワールドのワクチン接種の有効性と安全性の確認が必要である。

とりわけ、米国で2021年12月からオミクロン株が流行しており、12～15才児における有症状感染防止効果が低下しているという報告がある。

PROTECTコホートは、1364名の5～15才児に症状の有無にかかわらず、毎週PCR検査を継続し、新規感染の有無を調査する研究である。

新型コロナ感染が確認されたワクチン未接種児のうち、有症状感染者はデルタ株で66%、オミクロン株で49%だった。

ワクチン2回接種済みの5～11才児では、オミクロン株に対する感染（有症状および無症状）リスクが31%低下した。

（基礎疾患、ソーシャルコンタクト度合い、マスク使用の有無、市中感染の状況などを調整）

12～15才児では、2回接種完了でデルタ株感染が87%、オミクロン株感染が59%低下した。

オミクロン株感染児において、ワクチン完了児は未接種児よりも1日半早く症状が軽快した。

これらの年齢層の小児は、新型コロナワクチン接種を進めることが望まれる。